



丸栄製作所

巨大バケット量産へ

鉱山開発で需要拡大

建設機械先端機器メーカーの丸栄製作所(射水市鷺塚・小杉、今牧繁社長)は、鉱山開発などで使われる建機用の超大型バケットを量産する。重さが一個十三トに上る巨大なバケットで、鉄や石炭など世界的な原材料需要の拡大を背景に超大型建機向けに需要が急増しており、建機最大手のコマツから受注した。本社工場に大型クレーンなどを増設し、三月から本格

生産に入る。

超大型バケットは幅、奥行き、高さがそれぞれ三層前後で、使用する鋼板の肉厚は最大百十ミリの十トトラック数台分に当たる十三立方分の土砂などを一度にすくうことができる。バケットを装着した建機の総重量は二百トとなる。

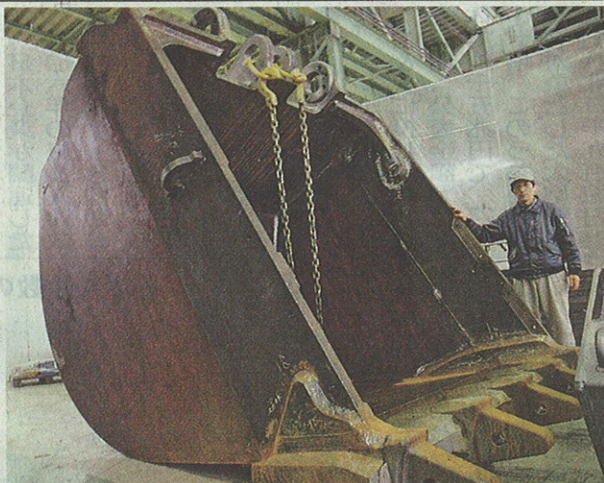
従来は日本で製造されることが少なく、製造する場合でも主に造船メーカーや大手重機メーカー

が受注していた。需要の急増に伴い、中型バケット(重さ二ト未満)が主力の丸栄製作所でも二年前ほど前から数カ月に一個程度の納期で不定期に受注していたが、品質や技術力が評価され、コマツの要請で本格生産に乗り出すことになった。

二月中に十五トクレーン一台を増設し二台体制とし、三月から月三台ペースで生産を開始。今年中には三台目のクレーン

を導入するとともに、工場内の設備の再配置なども進め、来年からは月五台ペースに引き上げる計画。

超大型バケットは中・長期的に市場の拡大が見込め、利幅も大きいことから、中型に次ぐ事業の柱に育てていく考え。



丸栄製作所が本格生産する超大型バケット

平成19年1月20日(土)
北日本新聞